



2010年10月15日発行（隔月刊）



う 羽 化 か

ISSN1880-8646
2010年10月
第 82 号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 木 下 和 久



目 次

漢点字の散歩 (21) (岡田健嗣)	1
一 言 (岡田健嗣)	9
点字から識字までの距離 (78) (山内 薫)	16
東京漢点字例会報告とわたくしごと (木村多恵子)	19
東京漢点字学習会報告 (菅野良之)	25
漢文のページ	29
ご報告とご案内	31
漢点字講習用テキスト(初級編・第22回)	34
編集後記 (木下和久)	35

漢点字の散歩 (二十一)

岡田 健嗣

漢点字紹介 (四)

4. 漢点字のご紹介



① 第一基本文字 (一マス漢点字) (承前)

前号に引き続き、一マスの漢点字をご紹介します。漢点字符号をかな読みした場合の、五十音に従ってご紹介します。

カ行

(12) 金 キン コン かね
「金」は、「金」を表す漢点字符号です。「金」や

「金」の形で、金の入った文字を構成します。「金」は、金属の名前や金属製品を表します。

例… 銀 銅 鉄 針 鋼

キ

(13) 木 ボク モク き こ

「木」は、「木」を表す漢点字符号です。「木」の形で、多くの文字に含まれます。

例… 林 森 相 想 机

ク

(14) 草 ソウ くさ

「草」は、「草」を表す漢点字符号です。「草」は、草冠として多くの文字に含まれます。

例… 菜 薄 荷 芳

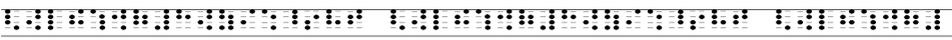
* 「木」と「草」は、木偏・草冠として用いられますが、木偏は樹木の名前と木製品や木にまつわる文字を形成します。草冠も同様に、草の名前と草を原料にした製品や草にまつわる文字、あるいはその他から派生した文字を形成します。漢点字では、樹木の名・草の名は、原則として一括した漢点字符号を使用することになりました。従ってこの「木」、「草」の漢点字符号は、原則として樹木や草の名前には用いられません。

ケ

(15) 犬 ケン いぬ

「犬」は、「犬」を表す漢点字符号です。「犬」の漢点字符号は、獣偏として、多くの文字に含まれます。また「犬」の形で、「犬」の含まれる文字を形成します。

例… 狭 狂 独 猷 状



然

コ

(16) 子 シ こ

「子」は、「子」を表す漢点文字符号です。「子」の形で、「子」を含む文字を構成します。

例… 季 享 好 孝

サ

サ

(17) 都 ト ツ みやこ

「都」は、「都」を表す漢点文字符号です。「都」の文字には「おおざと」が含まれています。そこで漢点文字では原則として、「都」の形で「こざと」を、「都」の形で「おおざと」を表します。

例… 阿 院 限 郡 部
郎

シ

(18) 市 シ いち

「市」は、「市」を表す漢点文字符号です。「市」を含む文字に用いられるとともに、なべぶたをとれば「巾」になりますので、「巾」の含まれる文字にも用いられます。

例… 姉 肺 帳 布 幅

* 「巾」を単独に用いる場合は、「巾」の漢点文字符号が当てられます。「布巾」は「巾」、「巾」は「巾」となります。

ス

(19) 発 ハ ツ ホ ツ はなつ たつ

「発」は、「発」を表す漢点文字符号です。「発」の漢点文字符号は、「発(はつがしら)」を表します。また「発」で、「発」を含む文字を表します。

例… 登 廢

セ

(20) 食 シ ヨ ク ジ キ たべる くう

「食」は、「食」を表す漢点文字符号です。「食」の形で、「食偏」を表します。

例… 飲 館 飯 飽

* 「食」には「良」の文字の形が含まれますが、漢点字では「食」と「良」とは別字と捉えます。

ソ

(21) 馬 バ うま まめ

「馬」は、「馬」を表す漢点文字符号です。「馬」の形で、「馬」を含む文字を表します。「馬」や

例… 駅 驚 駿 篤

タ行

タ
ㇰ

(22) ㇰ田 デン た

「ㇰ」は、「田」を表す漢点字符号です。「ㇰ」や

「ㇰ」の形で、「田」の文字を含む文字を表します。

例… ㇰ男 ㇰ町 ㇰ畑 ㇰ胃 ㇰ細

ㇰ思

* 「田」は耕作地を象形化した文字ですが、「細、思、胃」などの「田」は耕作地に由来してはい

ません。しかし、漢点字ではその形を取って、「ㇰ、

ㇰ」で表しました。

チ
ㇱ

(23) ㇱ竹 チク たけ

「ㇱ」は、「竹」を表す漢点字符号です。「ㇱ」の

形で、「竹冠」を表します。

例… ㇱ管 ㇱ筋 ㇱ箱 ㇱ等

* 「竹冠」のつく文字は、多く竹製品を表しますが、「笹、篠」のように竹の名前を表す文字もありま

す。漢点字では先にご紹介した「木、草」と同様に、

後にご紹介する植物の名前を表す符号が用いられま

ツ
ㇲ

(24)

ㇲ土 ド つち

「ㇲ」は、「土」を表す漢点字符号です。「ㇲ」や

「ㇲ」の形で、「土」を含む文字を表します。

例… ㇲ域 ㇲ地 ㇲ社 ㇲ壁

ㇲテ

(25)

ㇲ手 シユ て

「ㇲ」は、「手」を表す漢点字符号です。「ㇲ」の

形で「手偏」の文字を、「ㇲ」の形でその他の「手」

を含む文字を表します。

例… ㇲ持 ㇲ批 ㇲ抱 ㇲ拳 ㇲ掌

(26)

ㇲ戸 コ と

「ㇲ」は、「戸」を表す漢点字符号です。「ㇲ」の

形で「戸冠」を含む文字を表します。

例… ㇲ所 ㇲ辰 ㇲ扇 ㇲ肩

ナ
ㇳ

(27) ㇳ人 ジン ニン hito

「ㇳ」は、「人」を表す漢点字符号です。「ㇳ」の

形で、「人偏」を含む文字を表します。また「ㇳ」の

形で、他の「人」の形を含む文字を表します。

例… ㇳ来 ㇳ仰 ㇳ僕 ㇳ価 ㇳ値 ㇳ臥

* 「来」は、旧字の「來」の文字の中に「人」の形が含まれているところから、「𠂇」の漢点字符号となりました。ただしこの「人」の形は、「ひと」を意味してはいません。実って穂を垂れた穀物（麦）を象ったものです。

(28) 𠂇 仁 ジン

「𠂇」は、「仁」を表す漢点字符号です。「𠂇」の形で、二つ目の「人偏」を表します。

例… 𠂇 作 𠂇 使 𠂇 任 𠂇 仏

* 「人偏」を含む文字は数多くあります。そこで漢点字では「糸偏、言偏」と同様に、二つの符号を用意しました。「𠂇」を「第一人偏」、「𠂇」を「第二人偏」と呼びます。

二 𠂇 𠂇

(29) 𠂇 水 スイ みず

「𠂇」は、「水」を表す漢点字符号です。「𠂇」の形で、「さんずい」を表します。また、「𠂇」の形で、「水」の文字を含む文字を表します。

例… 𠂇 河 𠂇 池 𠂇 海 𠂇 湖

(30) 𠂇 氷 ヒヨウ コおり コおる ひ

「𠂇」は、「氷」を表す漢点字符号です。「𠂇」の漢点字符号は、二つ目の「さんずい」として用いられ

るとともに、「にすい」としても用いられます。また「𠂇」の漢点字符号は、「氷」や「にすい」を含んだ文字を表します。

例… 𠂇 汗 𠂇 漏 𠂇 滑 𠂇 次 𠂇 凍
𠂇 寒

* 「𠂇(にすい)」は、「氷」に由来する部首です。これを含む文字は比較的少ないことから、「さんずい」を含む文字が大変多いことから、「𠂇」を「にすい」と二つ目の「さんずい」の符号として用います。そこで「𠂇」を「第一さんずい」、「𠂇」を「第二さんずい」あるいは「にすい」と呼びます。従って漢点字からは「𠂇」の符号が、「にすい」であるか「さんずい」であるかを判断することはできません。

又 𠂇 𠂇

(31) 𠂇 力 リヨク リキ ちから

「𠂇」は、「力」を表す漢点字符号です。「𠂇」や「𠂇」の形で、「力」を含む文字を表します。

例… 𠂇 協 𠂇 男 𠂇 勉 𠂇 労

ネ 𠂇 𠂇

(32) 𠂇 示 シジ しめす
「𠂇」は、「示」を表す漢点字符号です。「𠂇」の形で「示偏」を表します。また「𠂇」の形で、「示」

を含む文字を表します。

例… 神 社 札 宗 祭

* 「示偏」によく似た形の部首に「衣偏」があります。後述の通り、漢点字ではこれも「」で表します。

ノ

(33) 私 シ わたくし

「」は、「私」を表す漢点字符号です。「」の形で、「ノ木偏」や「ノ木」が上にある文字を表します。また「」の形で、「ノ木」を含む文字を表します。

例… 科 種 秋 委 季

秦

ハ行

ハ

(34) 走 ソウ はしる

「」は、「走」を表す漢点字符号です。「」の形で、「走によう」を表します。また「」の形で、「走」を含む文字を表します。

例… 趣 赴 超 越 徒

ヒ

(35) 進 シン すすむ

「」は、「進」を表す漢点字符号です。「」の形で、「しんによう」を表します。

例… 道 送 迎 連

(36) 火 カ ひ

「」は、「火」を表す漢点字符号です。「」の形で、「火偏」を表します。また「」の形で、「火」を含む文字を表します。

例… 煙 焼 灯 燃 炎

フ

(37) 女 ジョ ニョ おんな

「」は、「女」を表す漢点字符号です。「」の形で、「女」を含む文字を表します。

例… 姉 妹 安 委 要

へ

(38) 玉 ギョク たま

「」は、「玉」を表す漢点字符号です。「」や「」の形で、「玉」を含む文字を表します。玉は部首となるとき、しばしば「王」の形に変化します。

例… 国 璽 宝 現 珠

珍

ホ

(39) 「方」は、「方」を表す漢点文字符号です。「方」の形で「方偏」を、「方」の形で「方」を含む文字を表します。

例… 旗 施 放 訪 芳

マ行

マ (40) 「石」は、「石」を表す漢点文字符号です。「石」の形で

「石偏」を、「石」の形で「石」を含む文字を表します。

例… 研 硬 磁 硝 碧

ミ

(41) 「耳」は、「耳」を表す漢点文字符号です。「耳」の

形で「耳偏」を、「耳」の形で「耳」を含む文字を表します。

例… 取 職 聖 聴 聞

草

ム

(42) 「車」は、「車」を表す漢点文字符号です。「車」の

形で「車偏」を、「車」の形で「車」を含む文字を表します。

例… 軽 転 軟 軍 庫

連

メ

(43) 「目」は、「目」を表す漢点文字符号です。「目」の

形で「目偏」を、「目」の形で「目」を含む文字を表します。

例… 眼 睦 相 督

* 漢点字では「目」に由来しない文字の中に「目」の形が含まれる場合にも、「目」の形を用

います。

例… 県 真 直 面

モ (44) 「門」は、「門」を表す漢点文字符号です。「門」の

形で「門構え」を表します。

例… 開 閉 閑 閑 間

ヤ行

ヤ (45) 「病」は、「病」を表す漢点文字符号です。「病」の

形で「病垂れ」を表します。

例… 痛 疲 癖 痢 療

ユ (46) 行 ギョウ コウ ゆく おこなう

「行」は、「行」を表す漢点字符号です。「行」の

形で、「行人偏」と「行構え」を表します。

例… 後 得 律 街 衡

ヨ (47) 店 テン みせ

「店」は、「店」を表す漢点字符号です。「店」の

形で「麻垂れ」を表します。

例… 庫 広 庶 席 磨

ラ (48) 月 ゲツ ガツ つき

「月」は、「月」を表す漢点字符号です。「月」の

形で「月偏」を、「月」の形で「月」を含む文字を表

します。

例… 能 服 朋 期 明

(49) 肉 ニク しし

「肉」は、「肉」を表す漢点字符号です。「肉」や

「肉月」の形で、「肉月」を表します。

例… 肩 肝 脚 脳 胃 筋

* 部首の「月」の形は、天体の「月」と「肉」に

由来しますが、「舟」に由来する「月」も沢山ありま

す。しかも天体の「月」、「肉月」、「舟」に由来す

る「月」の区別は、必ずしも判然としません。漢点字

では原則として「月」と「舟」に由来す

る「月」を、「月」と「肉月」を表します。しか

し「有」と「朝」は漢点字符号の

「月」と「肉月」が反対になっています。漢点字の創

作時にこのようになりましたが、既に長年の膾炙によ

るものとご了解下さい。同様の異同は他にも見られま

リ (50) 分 ブン フン わける わかつ

「分」は、「分」を表す漢点字符号です。「分」の

文字は、「八」と「刀」できていますが、「分」は

「分」の文字全体を表します。「分」の形で「八頭」

や三角屋根の形を表します。また「分」や「分」の形

は、「分」を含む文字も表します。

例… 会 舎 全 貧 粉

(51) 日 ジツ ニチ ひ

「日」は、「日」を表す漢点文字符号です。「日」や「日」の形で、「日」を含む文字を表します。また「日(エツ)」を含む文字も表します。

例… 映 晶 曜 是 間
書 書 書 書 書 書

(52) 性 セイ ショウ さが

「性」は、「性」を表す漢点文字符号です。「性」の形で「立心偏」を表します。また「性」の形で、「下心」を表します。

例… 悦 情 悩 恭 添
慕 慕 慕 慕 慕

(53) 心 シン こころ
「心」は、「心」を表す漢点文字符号です。「心」や「心」の形で、「心」を含む文字を表します。

例… 恐 感 思 志
恐 恐 恐 恐

(54) 口 コウ ク ouchi
「口」は、「口」を表す漢点文字符号です。「口」の形で、「口偏」を、「口」の形で、「口」を含む文字を表します。

例… 兄 咲 史 呈 加
器 器 器 器 器

(55) 囲 イ かこむ
「囲」は、「囲」を表す漢点文字符号です。「囲」の形で「国構え」を表します。

例… 困 困 団 国 回
困 困 困 困 困

(56) 十 ジュウ とお

「十」は、漢数字の「十」を表す漢点文字符号です。「十」や「十」の形で、「十」を含む文字を表します。

例… 友 布 直 有 計
針 針 針 針 針

* 漢点字では、「布、友、有」の上の部分、カタカナの「ナ」に似た形の部分を、「(十)」で表すことにしました。

(57) 止 シ とめる とまる やむ
「止」は、「止」を表す漢点文字符号です。「止」や「止」の形で、「止」を含む文字を表します。

例… 歩 齒 肯 祉 洪
歩 歩 歩 歩 歩

以上、漢点字の最も基本的な文字、一マスで表す第一基本文字・57字をご紹介します。

次回からは、この第一基本文字で構成された文字と、二マスで表す基本文字をご紹介します。

一言

岡田 健嗣

ヴィクトール・フランクル



前号では「読む」ということを考えてみました。

私どもは、私どもが行っている漢点字普及の活動は、そのまま視覚障害者の識字運動であると考えています。日本語を母語とする私どもは、視覚に障害がある／なしによらず、「漢字仮名交じり文」を読み書きすることを求められています。ところが「漢点字」が発表されるまでは、漢字を表す触読文字はありませんでした。従って視覚に障害を持つ者は、漢字の体系の文字を使うことができなかったばかりでなく、漢字の知識の習得も叶わなかったのです。触読できる文字は「点字」と呼ばれるかな体系（実際はローマ字体系）の音標文字だけでした。やっと一九六九年になって、世界で初めて触読可能な漢字の体系である「漢点字」が、故・川上泰一先生によって発表されました。そして初めて漢字の知識を手にすることができ、触読で「漢字仮名交じり文」を読めるようになったのです。

ところでここで私は、「視覚に障害がある／なしに

よらず」と書きました。この認識がそもそも違う、というご意見があるのかもしれないことに気づいています。視覚に障害のある者は、「漢字仮名交じり文」を読み書きする必要はない、というご意見です。私はこれまでこのことを考えに入れてきませんでした。もしこれが公的な見解であれば、私どもが行っている活動も、識字運動ではなく、漢点字愛好者のクラブ活動に過ぎない、と位置づけられるのでしょうか。しかし公的機関はもとより、どの方面から何方もこのようにはおっしゃいません。誰も言いませんが、視覚障害者は「漢字仮名交じり文」を読み書きしなくてもよろしい、「漢点字」は「漢点字」の愛好者が使用すればよろしい、と暗に誰かが言い、多くの視覚障害者と彼らがなす社会に足場を置く晴眼者がそれに呼応してうなずいている姿が浮かんできると、誰も何も言わない、決して正面から議論しない、そうして視覚障害者の「漢字仮名交じり文」の読み書きそのものを黙殺している、それが現在の状況に見えてくる、黙して顧みられないという状況が。何がそうさせているのか、私には分かりません。ひよっとしたらこれは普遍的な默契なのか？もしそうであれば、私だけが不感症であったために、その默契に棹を差してしまった、そんなのかもしれない、多分そうなのだろう、そんな風に見え始

めました。

障害者福祉の領域でノーマライゼーションという言葉が唱えられるようになって久しく時が経ちました。

ノーマライゼーションとは一言で言えば、社会のあらゆる場所で、障害者を、その障害を理由に排除したり拒んだりしてはいけない、社会の責任において、障害者を社会の構成員として受け入れて、分け隔てない生活が営めなければいけない、という理念のことです。実に荘重な理念です。その実現にかかる費用は、社会的コストとして、社会が負担しなければならぬとも言っています。

この考え方は前世紀の半ばに、デンマークの社会福祉の現場に発したと言われます。後に欧米の社会福祉の原理とされました。わが国でも一九七〇年代辺りからよく聞かれるようになって、現在インフラとしてよく見られる、公共施設のエレベーターや点字ブロックの設置、駅の券売機の点字表示などはこの考え方に則った整備と言われます。そして厚労省や福祉関係者の間では、「わが国のノーマライゼーションは、ほぼ達成された」と言われていると耳にします。

なるほどそうか、ノーマライゼーションの考え方からすれば、エレベーターや点字ブロックを設置することと同様に、漢点字の習得を進めることなく、実際には

「漢字仮名交じり文」が読めなくても「読める」ことにする、「読めると見做」せばよろしいということなのかと、今私は膝を打ったところです。なるほどそうか！

前置きが長くなりました。

最近「ハドン・クリングバーグ・ジュニア著、『人生があなたを待っている―夜と霧を越えて』（赤坂桃子訳、みず書房）」という本を読みました。これは「夜と霧」とサブタイトルされているように、その著者・ヴィクトール・フランクル（一九〇五―一九九七）の生涯を紹介したものです。著者のクリングバーグは、フランクルの弟子とも言える精神医学者です。視覚障害者にも音訳書ができていますので、読むことができます。

周知のようにフランクルは、戦後「ホロコースト」と呼ばれるナチスの強制収容所から辛くも生還した数少ないユダヤ人の一人です。収容所内で父の病死を看取り、母は引き離された後にガス室へ送られ、妻とも別れ、その妻もあのアンネ・フランクと同じ時期に同じ収容所で、熱病（発疹チフスと言われる）に倒れてこの世を去りました。その数か月後には終戦を迎えようとしていたのです。

フランクルはウィーンに戻ってその事実を知りま

す。独りになったことを知って彼は、口述筆記で『夜と霧』を書き上げたと言われています。

左の引用は、前掲書に収録されているフランクルの講演です（傍点を〃）、棒線をーで表しました。）。その中で彼は、人間は本能から指針を得ることはできない、現在では伝統や価値観からも、指針を得ることができなくなったと言います。そのような中から人は、内面に空虚感を抱くようになる、彼はこれを「実存的空虚」と呼びます。この空虚の出現とそれを克服が、この文の主題と言えます。これは昨年、作家の村上春樹氏のテルアビブでの講演で用いた「壁と卵」の喩に通ずるものを感じさせます。卵は弱い、壁にあたれば壊れる。だが弱いものは壊してもよいのか……？

「基本的に、根源的に、本質的に、人間はホメオスタシスを気かけないのです。人間は、〃本質的に〃、愉悦、幸福、あるいは自分の内部の状況を気にしないのです。そもそも基本的に、人間は自分自身、あるいは自分の内部のすべてにかまわないのです。人間であることの真のしるしとあかしは、人間はつねに自分以外の何かをめざし、その方向に向かうという点にあります。人間の存在は、つねに、それ以外のなにか、自分以外の誰かに結びついています。」（左の引

用から）

村上氏の作品では、スポイルとその克服がテーマになっっているように読めます。この克服が、フランクルの言う「自己実現」でなく「自己超越」なのだと言語り口に響き合っているように読めるのです。この超越あるいは克服に、「言葉」が大きな力になるに違いない、私はそう思うのです。

フランクルは最晩年に、イランから招待を受けていたといえます。彼自身、大変乗り気だったともいえます。彼が言うように、そこに有効性を見出すことは不毛でしょう。しかしあのイランに、ホロコーストから生還したユダヤ人が訪れるというのは、遠く離れた地にいる私どもも、耳目を惹かれる思いにさせられる出来事だと言つてよいと思います。残念ながら彼は、それを果たすことなくこの世を去りました。

（引用は、音訳書から私が起こして、東京漢点字羽化の会会員の杉田ひろみさんに校正していただきました。）

（ヴィクトール・フランクル、1973/02/11の講演から、トロント、マツシーホールにて）

若者における意味の探求

みなさま、私は先日、アメリカの学生からお手紙を

いただきました。この手紙から二つの文章を引用させていただきます。「フランクル博士、私は学位と、車と、安全と、必要以上のセックスと力を持ってあましている22歳です。いま私がしなければならぬのは、これらすべてがどんな意味を持っているのか、自分のためにその説明を見つけないことだけです」

この豊かな社会のただ中であって、いったいなにが欠如し、なにが失われ、彼が持っているものすべてにどのような意味があるのでしょうか？このすべてが無意味であるという感覚が、今日ほど若い人びとのあいだで増大し、蔓延したことはありません。それはしばしば、内面の空洞からくる空虚感と関係があります――私はこれを「実存的空虚」と呼んでいます。この空虚な真空状態は、人生を価値あるものにする意味を探し求める若者の実存的フラストレーションなのです。このことについて簡単に説明いたしましょう。

動物とは異なり、人間はなにを「すべき」か本能が命じてくれなくなつてから久しいのです。また昔とはちがつて、伝統や価値観も指針となつてくれません。そこで現代の人びとは、自分が本当に「したい」ことがなにかすらわからなくなつていきます。その結果、彼はほかの人たちがしていることをそのまましようとするので――体制順応主義――あるいはほかの人が自分で

望んでいることをする――全体主義と言えるかもしれませんが。

私は、かつてジークムント・フロイトがマリー・ボナパルトに書いた文章には賛成できません。彼はここで、人間は自分の価値、存在の意味を疑っているときは病気であると書いているのです。でも私は、その人間がほんとうに病気だとは考えません。むしろそれは真の人間存在であることの表明です。蟻も、蜂も、いかなる動物も自分の存在の意味があるかどうか疑問を感じたりしません。人間だけなのです。存在の意味について思い煩うのは、人間の特権なのです。人間はそのような意味を探し求めるだけでなく、その意味を実現する「権利」を与えられています。このような理由から、それは神経症の症状ではなく、人間としての成就だと認めなければなりません。つまりそれは、知的な誠実さと偽りのなさのあらわれなのです。人生の意味はすでに与えられていると考えるより、大胆にそこに立ち向かつていく――疑問を抱き、そのような意味がほんとうに存在するのか挑戦を挑むのが若者の特権です。しかし私が思いますに、この勇氣には忍耐も必要です。若い人たちは、性急に自らの命を奪つたりせず、待つ――辛抱よく待つ――必要があるのです。そうするといつかそのうちに意味が見えてくるので

す。若者たちの自殺が世界的な規模で増加している現実を、よく考えてみなければなりません。

また、薬物の力を借りて逃避する若者がいます。あの種の薬物を服用すると、全世界が突然「はてしなく意味にあふれている」ように見えてくるからです。すべてが意味に満ちているという感覚が得られますが、それは単に主観にすぎず、真実の意味、現実の意味、ほんものの意味によつて裏打ちされていません。ほんものの意味は外の世界にあつて、あなたによつて成就されるのを待っています。それはあなたがた自身の心の中にはないのです。薬物の力を借り、無限の意味を主観的に経験して自分を満たそうとする若い人たちは、オールズとミルナーが自己刺激の実験を行った被験動物と同じような危険にさらされているのです。彼らは被験動物の脳の視床下部に電極を挿入し、電気回路を接続するたびに、動物が明らかに性的オルガスムスまたは食物摂取による満足感のような感覚を経験していることを観察しました。動物はレバーに飛び乗つて自分で回路を閉じることを学習し、この操作がやめられなくなりません。性交または食物摂取時のような主観的な満足感を得ることができた動物は、ほんものの性交相手または食物が与えられてもこれをかえりみず、無視するようになりました。電流で十分だったのです。同じように、薬物の常用により意味の経験を味

わつてしまった者は、その人によつて―他の誰でもない、まさにその人によつて―なし遂げられるのを待っている真の課題、真の意味を避けて通るようになるのではないのでしょうか。そしてこれらの意味は、他でもないその人によつて、いま、ここで実現されなければ、永遠に過ぎ去つてしまうのです。

人間を、その人間的な次元まで追跡せず、人間的な現象に高い価値を認めず、その代わりに還元主義者のようにその人間性を奪つてしまったなら、私たちはこの世の状況にうまく対処できないでしょう。真の人間のモチベーション―つまり意味の探求―を認めていないのであれば、それが挫折したとしても気づきようがありません。ちがう言葉で説明してみましよう。どうやったら、あなたがたはこの時代の病や苦しみを克服しようとしている人びとに向き合い、彼らを助けられると思えますか？それには時代遅れのモチベーション理論を乗り越える努力をしなければなりません。私が言っているのは、あなたがたが大学でひっきりなしに吹き込まれている現代の学術的心理学の図式や決まり文句―人間は動物と同じように閉鎖されたシステムで、自分の中にあるものすべてを均衡状態に保とうと試みる、生物学で言うところの「ホメオスタシス」をもつという理論―のことです。人間は自分の衝動を満足させ、欲求を鎮め、自分のホメオスタシスのためな

らほかの人間をセックスのパートナーとして使うことまでするのだ、という見方を克服できなかったらどうなりますか？もしもこのカリカチュアのような人間のまま他者を助けようとすれば、事態を変える手助けはできないのです。

基本的に、根源的に、本質的に、人間はホメオスタシスを気にかけないのです。人間は、「本質的に」、愉悦、幸福、あるいは自分の内部の状況を気にしないのです。そもそも基本的に、人間は自分自身、あるいは自分の内部のすべてにかまわないのです。人間であることの真のしるしとあかしは、人間はつねに自分以外の何かをめざし、その方向に向かうという点にあります。人間の存在は、つねに、それ以外のなにか、自分以外の誰かに結びついています。

つまり私が自己超越と言っているのは、言い換えれば、人間はもともと自分の人生における意味を発見して実現し、他者を愛して励ますことに関心をもっているということですよ。性的緊張や攻撃的衝動、潜在意識などを振り払うための道具として他者を利用するのはないのです。そうではなく、人間的、個人的次元で、他者の唯一無二の存在を人格として認めて理解すること、つまりこの人間を愛することを意味します。自己超越とは、人間は基本的かつ本来的に——その存在が神経症を病んでいないかぎり——自分より偉大

なものに奉仕し、あるいは自分以外のちがう人を愛せうとするものなのだ、ということですよ。ある理由のため、または他者への愛のために尽くすことよって、人間はいわば副次的な効果として自己実現しますが、それは目的ではないのです。自己実現を目的とする、最終的には自己破滅的な結果に至ります。

私が提唱する意味への意志の概念を、オーストリア出身のフランク博士とかいうやつが理想主義的で私的な仮説さ、と簡単に片づけてしまわないでください。私の理想主義は、ほんものの現実主義なのです。たとえば意味への意志は、大学の実験心理学部で五一人の被験者を対象に行われた調査で実証されています。調査の結果、意味への意志が存在し、それは人間のモチベーションの主たる原動力だということが判明しました：ヨーロッパでは、成人したアメリカ人というのはお金を稼ぐことばかりに熱心だとみなされがちです。しかし大学生を対象とした他の調査では、人生の主要な目標はお金をたくさん稼ぐことだと答えた学生は、十六パーセントにすぎませんでした。なにがいちばん重要な目標だったか、皆さん、おわかりになりますか？このアメリカの若者の七八パーセントが、「人生における意味と目的」を探すことに心を寄せていたのです。

もしも人をその人のあるがままにとらえたら、私た

ちはその人を悪くしてしまう。その人を彼が本来あるべき人のように扱ったなら、私たちはその人が到達できるところへと至らしめることができる―これは誰の言葉かご存じですか？ゲーテです。

もしも若者がもつ意味への意志を認めなかったら、あなたは彼を悪くさせ、鈍感にさせ、彼のフラストレーションに加担することになります。いわゆる犯罪者や非行少年少女、または薬物乱用者などにも一瞬、まばゆく光るものがあるにちがいない―そう、意味を求めるきらめきがあるはずで、それがあるといふ前提に立とうではありませんか。そうすれば私たちはそれを彼から引き出し、彼が原則としてなれるはずの何かになる手助けができるのです。

自己超越という抽象的な問題を、私たちの目を例に挙げて説明してみましよう。というのも、目はある意味で自己超越的だからです。周囲の世界を知覚するという目の能力は、皮肉なことに、鏡を見れば話は別ですが、それ自身を知覚する能力の「欠如」によって決まります。私たちの目がそれ自体のなにか、たとえば光の回りに色付きの光輪を感じしたら、それは目そのものの緑内障が原因です。私が物の表面の曇りを見るとき、実は私は自分自身の白内障、自分の目のなにかを見ています。しかし健康で正常な目は、それ自体のなにかを見ません。視力は、目がそれ自体のなにかを

感知する度合いに合わせて悪化するのです。

それは人間存在でも同じです。人間存在は、他者を幸せにする代わりに興味の対象を自分に向ければ向けるほど、ゆがめられてしまうのです。人びとは幸せを目的にしてそれを追い求め、それがためにねらっているものを失っているのです。皆さんもおわかりのように、今日では、人間がもともともっている意味への意志が欲求不満に陥ると、性の快楽がその代わりとなってしまうています。実存的空虚の時代には、性的衝動が増大するのはなんの不思議もありません―実存的空虚の中で、それは驚くほど肥大するのです。「セックスのインフレ」と私は言っていますが、これは金融市場などにおけるインフレと似ています。つまり、価値の低下を引き起こすわけです。そもそもセックスは楽しみのためだけのものではなかったのですが、今日ではセックスの価値は下がり、人間性が奪われてしまっています。人間のセックスはつねに単なるセックス以上のものです。なにかセックスを超えるもの、メタ・セクシュアルな身体表現として―愛の具現化として為されると、それは単なるセックス以上の意味をもちます。私は道徳家として教えを説いているのではなく、医療現場における日々の仕事、臨床や病院での経験に基づいて話しています。そのような立場から、私はこの結論に達したのです。

(前掲書 P 433 ~ 439)

点字から識字までの距離（七八）

盲学校・ろう学校生のインターンシップ(二)

山内 薫（墨田区立あずま図書館）

八月二日の二日目は、一日緑図書館でインターンシップを行った。緑図書館では毎月第一木曜日に午前中は「小さい子どものためのおはなし会」、午後は特別養護老人ホーム「清風園」での出張貸出と催し物があるので、インターンシップの他、大学で司書資格を取得するための実習生や国立国会図書館員の実習、日本図書館協会の障害者サービス担当者講座の実習などが第一木曜日にあたるときには、出来るだけこの緑図書館の行事に参加してもらおうようにしている。一日で乳幼児へのサービスと高齢者施設でのサービスの現場を体験できるので、実習生にとってはとても良い経験が出来る。

午前中の「小さい子どものためのおはなし会」には〇歳から二歳くらいの乳幼児がお母さんと一緒に大勢参加してくれ、時にはまだ首の据わらない一ヶ月や二ヶ月の赤ちゃんも来場する。以前もこの連載で書いたことがあるが、乳幼児のおはなし会では音楽が決定的な役割を果たす。まだ言葉が分からない赤ちゃんにとって絵本やお話しを読む大人の声をお母さんの膝の上

や座布団の上で聞くことは、言葉ではなく音を聞いていることだが、そこにちよつとしたメロディーが加わると赤ちゃんの反応が俄然違ってくる。お話しの中で話し手が「ふふふーん」等とちよつとしたメロディーを口ずさむと、赤ちゃんはそちらの方に顔を向けるのだ。従つてこのおはなし会では音楽が不可欠であり、極力歌や音楽をおはなし会の中に組み込むようにしている。今回のお話会でも何曲か歌を歌う他に人形を使ったパフォーマンスがプログラムに組まれており、キーボードによる演奏が予定されていた。Kさんと担当の先生と打合せをした時にKさんがキーボードを弾けると聞いていたので、この日に演奏する曲のいくつかをKさんに弾いてもらうことにした。又午後の清風園でも紙芝居や絵本の後必ず二曲歌を歌うことになつていたので、こちらの方も事前に曲を伝えて演奏してもらうことにした。

午前中の予定表は次の通り。

八時半 緑図書館に出

勤
九時〜十時半 「小さい



キーボード奏者Tさんと

子どものためのおはなし会」の準備と練習

お話会ではキーボードを弾いていただきます。曲は「おぼけなんてないさ」と『おはなしのろうそく五』東京子ども図書館編 東京子ども図書館 一九七六 に載っている短い詩「クマが山にのぼってった」に山内が主旋律を作るので、左手の伴奏を考えて、曲を弾いて下さい。

十時半〜十一時 「小さい子どものためのお話会」本番
十一時〜十二時 反省会と来月の計画
十二時〜十三時 昼休み

実は「クマが山にのぼってった」は、「つくしんぼ」という「小さい子どものためのおはなし会」を毎月お手伝いいただいているお話しของกลุ่มから作曲を依頼されたものだったのだが、詩のコピーだけしかもらっていなかった。ところが後で、この詩が収載されている『おはなしのろうそく五』の「話す人のために」というコメントに簡単な旋律が載っていることがわか



クマの練習風景

った。しかし、どちらかと言えば詩の雰囲気伝えて
いるのは私の曲の方ではないかと思うので、これはこ
れで良かったかと思う。

さて、お話会の開始は十時半だが、それまでに当日
のプログラムの予行演習を行う。いつもキーボードを
弾いて下さるTさんにKさんを紹介し、早速曲の練習
を行った。「おぼけなんてないさ」は、曲に併せて幽
霊に見立てた白い布を二人が竹籤で吊って動かしなが
ら歌う。机の上には黒い布を引きその上に厚紙で作っ
て彩色したお墓や草むらが載せてある。「おぼけなん
てないさ、おぼけなんてうそさ・・・」というこの曲
は皆よく知っているので2回程の練習でOKとなっ
た。

次は「クマが山にのぼってった」だが、これも歌を
歌うだけではなく、クマのぬいぐるみを使って行う。
元の詩は第一連が「クマが山にのぼってった」を三回
繰り返して、四フレーズ目に「そこでクマさん なにを
見た？」、第二連が「クマはもひとつ山を見た」を三
回繰り返して、四フレーズ目に「そこでクマさんなにを
見た？」、第三連は「くまはもひとつの山にのぼって
った」を三回繰り返して、四フレーズ目がまた「そこで
クマさん なにを見た？」、第四連は、「クマはもひ
とつ山を見た」を三回繰り返して、第四フレーズ目がま
た「そこでクマさんなにをした？」となり、以下第三

連に戻って、第三連、第四連と繰り返す。という単純な構成の詩である。三人の人が横に並びそれぞれ手を伸ばして結び、手の位置を谷間、頭のとっぺんを山の頂上に見立て、ぬいぐるみのクマを手から頭へ登らせる。そして又手の谷底に降り、再び隣の人の頭めがけて登って行く。という動作を歌を歌いながら繰り返して行く。山役の一人には立教大学のSさんにも一役買ってもらった。練習の後Kさんには本番で使うクマのぬいぐるみを触って確認してもらった。

十時半近くなると続々と観客が集まり始める。八月のお話し会は夏休みのためにいつもよりも大きい子供たちが沢山参加してくれる。この日も乳幼児に混じって保育園の年長さんや小学校の低学年の子どももちらほら見受けられた。

お話し会は恒例の「いないいないばあ」で開幕、最初の出し物は人形とパネルを使った『ぐりとぐらのかいすいよく』（作・中川 李枝子、絵・山脇 百合子、福音館書店 一九七七）、次に絵本を大きく描き直した『ふしぎなあおいばけつ』（作・絵・なりたまさこ、ポプラ社 二〇〇一）、そしていよいよ「クマが山にのぼってつた」で三人の頭の山の頂上を二往復して終了。次が「おばけなんてないさ」で、歌詞を模造紙に大きな字で書き、みんなで一緒に歌えるようにして、演奏が始まった。白い布のオバケもユーモラスな動きで子供たちの目を集めていた。Kさんは間奏のと

ころで少しミスをしたが大勢に影響はなく、観客の子供たちも楽しんでくれた。最後にもう一曲「うみ」を、これも模造紙に歌詞を書いてみんなで歌った。お話し会の最後はこれも恒例の「穴に落ちたねずみ」の歌をぬいぐるみを使って歌い終了。

お話し会が終わった後の少しの時間を見て午後には清風園で弾く「憧れのハワイ航路」をTさんと一緒に練習した。結局この曲は二人の連弾で弾くことになった。

お話し会の終了後は「つくしんぼ」の皆さんと緑図書館の職員とが来月のおはなし会のプログラムを決める話し合いがあり、そこにKさん、Sさんも参加した。Kさんの隣に座った「つくしんぼ」のGさんが、折り紙で折ってきた独楽を参加者に配ったのだが、Kさんがとても興味を示し、その折り紙を分解し始め

た、隣のGさんはそれではと話し合いの間には独楽の折り方をKさんに伝授した。三枚の折り紙をそれぞれ折って組み合わせる複雑な折紙独楽の折り方をKさんは十数分で会得してしまっただった。



折り紙を分解

「東京漢点字羽化の会」例会報告と

わたくしごと

木村 多恵子



第57回例会 2010年8月11日(水) 13:30~

15:30、ヒューマンプラザ第1会議室

先ず、入力していただいたテキストデータを、漢点字印刷ができるように、EIBRKで変換して、点字でのレイアウトを整えることに慣れていただくことをお願いした。

岡田さんが、「介護福祉」のテキストの書き方、特に見出し内容の大きさの順位をどう表すかについて説明した。点字では、一般には行頭スペースが多い方が大きな項目とされている。このテキストでは項目が細かく分類されているので、行頭スペースの数だけでは表しきれないので、括弧の種類を多様することで区別した。

たとえば、行頭スペース2の後に、I、1、1、1、(1)、〔1〕、"1"、
のように内容の順位を分けるようにした。

〈(山括弧開きと閉じ)と、△▽(大なり小なり)が似ているが、これを点字に表すと、はっきり違

うので、入力のとくに分けていただきたい。

ハイフン(ー)、マイナス(―)、長音(ー)は似通っているが、これも点字で表すと異なるので、読み分けし辛くなるのでご注意ください。ことなど、具体的に改めてお願いした。

この秋に行う「第二次パソコンによる漢点字入力ボランティア講習会」の打ち合わせをした。

ボランティア募集要項の掲載をお願いする読売新聞には、掲載希望日の3週間前までに、会の活動内容が分かる資料を、読売新聞へ送ること、その内容によって掲載するか否かを検討するという。その資料作りと送付を、菅野さんをお願いした。

横浜羽化で作っていただくテキストは、中田さんが横浜から頂いて来てくださる。

第1日目の11月10日は、テキストその他の資料、名札などの準備のために、第2会議室を午前もお借りした。

従って、第1日目は、会員の皆様にはいつもよりも早くに集まっていた。

新しく、現代詩文庫の北原白秋の詩集を入力して頂くことにした。皆様よろしくお願い致します。

第58回例会、2010年9月8日(水) 13:30~

15:30、ヒューマンプラザ第1会議室

「羽化81号」をお配りできた。

講習会で配布するCD・ROMを岡田さんが用意してくださった。

フランクルの『夜と霧』の一部を校正していただいた。

パソコンによる漢点字入力ボランティア講習会は、11月10、17、24日の三回に渡って、ヒューマンプラザ7階の、竹芝小ホール、何れも水曜日の午後、13時～15時と決まった。

岡田さんが毎日新聞と読売新聞、朝日新聞に、募集要項を掲載していただけるよう、横浜の講習会のことと一緒に交渉して下さっている。毎日新聞は新聞社の方針で募集記事の紙面が減らされたのも影響したのか、今回は掲載していただけなくなつた。従つて10月の例会では講習会を、この秋は見合わせる事になりそうである。

なお、横浜羽化主催の講習会は、9月29日、10月6日、10月20日、何れも水曜の午後である。

* 予告

10月の例会（第59回）、2010年10月13日、13時～15時、ヒューマンプラザ7階第1会議室

第42回学習会、2010年10月23日（第3土曜）、18時～20時、ヒューマンプラザ7階第1会議室

11月の例会（第60回、第2次「パソコンによる漢点

字入力ボランティア講習会」、三日間開催の第一日目に代える）、2010年11月10日（水）、13時～15時、ヒューマンプラザ7階、竹芝小ホール。（まだ時間は決まっていらないが、講習会準備のために、会員の皆様にはおおよそ10時にはご参集いただきたい。）

講習会、二日目、2010年11月17日（水）、13時～15時、ヒューマンプラザ7階、竹芝小ホール

講習会三日目、2010年11月24日（水）、13時～15時、ヒューマンプラザ7階、竹芝小ホール

第43回学習会、2010年11月20日（第3土曜）、18時～20時、ヒューマンプラザ7階第1会議室

12月の例会（第61回）、2010年12月8日（水）、13時～15時、ヒューマンプラザ7階竹芝小記念ホール

第44回学習会（第3土曜）、18時～20時、ヒューマンプラザ7階竹芝小記念ホール

わたくし」と

ヨハン・セバスチアン・バッハの『マタイ受難曲』に目覚めたのは、わたしが40代の頃である。それまで部分的には知っていたし、讃美歌の中にも有名なコー

ールが入っているので無縁ではなかった。

けれども、ある年の受難節の、ある日曜日、ラジオでこの曲を全曲放送した。しかも、わたしはそれと知らずに偶然全曲聞くことができた。実際の放送は3時間だったと思う。アナウンサーが、受難曲が終えた後、少し時間があるので、と言ってマタイとは関係のない曲をかけた覚えがある。

『マタイ受難曲』は約2時間半、CDでいえば3枚組で1曲というのであるから長い曲である。

この曲は新約聖書の中の4福音書の第1番目に配されている、『マタイによる福音書』の26章、27章を題材に、テノールの語り手（エヴァンゲリスト）や、イエス（バス）や、そのほかの登場人物、そして、群衆は合唱によって物語風に進められている。

ラジオで聞いた演奏者についてはなにも覚えていないが、放送に触発されて、初めて買ったCDが、カール・リヒター指揮、ミュンヘン・バッハ管弦楽団、ミュンヘン・バッハ合唱団、ミュンヘン少年合唱団、テノール（エヴァンゲリスト アリア）… エルンスト・ヘフリガー、バス（イエス）… キート・エンゲンミュンヘン、ヘルクレスザールにて、1958年6月8月録音の『マタイ受難曲』である。

早速地元の点訳グループの皆様が付録の解説書を点

訳していただいた。まだ仮名点字だけであったが、その解説を読みながら、何度かCDを聞いた。

『マタイ受難曲』は、紀元30年頃、エルサレムで起こったこと、キリスト教徒が救い主と信じるイエスの捕縛と裁判、十字架上の死と埋葬を描く音楽である。

おおよそのストーリーの流れは聖書で分かっている積もりであるが、各楽曲の内容をキヤッチするにはどうしても解説が必要であった。最初に書いたように、長い曲なので、じっくり時間をかけて読みながら聞くには時間が足りなかった。かといって、切れ切れに聞くのも、流れが滞って落ち着かない。そんな、不満とまで大げさではないけれど、なんとないモヤモヤが続いていたとき、この解説を点訳してくださったグループの中のお一人が、「『マタイ受難曲』」、東京でも全曲演奏」というホットな新聞記事を見つけて教えてくださった。

「演奏曲目…『マタイ受難曲』（全曲）

演奏者…鈴木雅明（まさあき）、バッハ・コレギウム・ジャパン

演奏会場…台東区上野学園内、石橋メモリアルホール

開催日…1991年3月28日 木曜

開場…18時

開演…18時30分

チケット代…一枚1万2千円」

(このチケット代については絶対の記憶ではない)

ただ、当時のわたしの生活レベルから考えるととてもなく高かった。それを自分の分と、付き添っていただく方の分の二枚を買うにはとてもとても難しかった。チケットを買う手段さえ知らない。それでも生の演奏を聴いてみたい。自分との反問が続いた。

チケットピアという所へ電話をして買うのだと教わり、ドキドキしながらかけてみた。するともう既に売り切れだという。がっかりしたのと、ほっとしたのとがごっちゃになって訳がわからない。けれどもまた、なんとかして聞きたいとの想いが頭をもたげてくる。

まずお金の工面である。夫には済まないと思いつながら一枚分を家計からひねり出した。さて、どこで買う？ わたしは考えた。パツハ・コレギウム・ジャパンは芸大のオルガン科が関わっている。なにしろ夫には内緒のことなので、近くの公衆電話へ行つて芸大のオルガン科に電話をし、何とかして生の演奏を聴かせていただきたい。チケットピアも売り切れている。どうしたら、どこへお聞きしたらチケットを手に入れられますか？とお聞きした。すると「一枚でよろしいのですか？」と言われる。「はい」というわたしの胸はドキドキであった。お代は当日受付でわたしの名前を言え

ば分かるようにしてくださると言い、わたしの住所と電話番号をお伝えして受話器を置いた。

さて、演奏会場の石橋メモリアルホールが何処なのか？一人で行けるだろうか？建物までは行けたとしても、指定の座席へはどうやって行く？あれやこれやと思案しながら、芸大に続けて思い切つてホールへ電話をした。上野駅からの道順を聞き、場所はなんとかなりそうなので、わたしは視力障害者であること、一人でホールの正面玄関へは行けるけれど、会場内の座席までの案内と、場合によっては洗面所への案内、そして帰りは遅いので、タクシーへの乗車まで面倒を見て頂けますか？とお願ひした。応対してくださった方がとても気持ちよく即座に請け合つてくださった。こういう面倒なことを依頼すると、たいてい少なくとも一度や二度は「係のものに変わります」と相手が変わり、また同じ話を繰り返すことが多いが、このときはすんなり請け負つてくださったのでほんとうにうれしかった。

その期待の当日は雨であった。しかも、持病の緑内障による眼圧が上がり、ひどい頭痛と吐き気、これにはホトホト困り果てた。が、何としてでも行きたい。夫には体調の悪さは気取られたくない。幸い演奏会は夜なので、怠け者を装つて出かける間際まで眠りに眠

つて、会場の方との約束の時間ギリギリに間に合うように出かけた。

第一部の長いコーラス中は、音楽そのものが頭に響いてガンガンする。「この頭の痛いのは我慢しますが、どうか吐き気だけは襲ってきませんように！」と念じながら聞いていると、睡魔が襲ってきた。なんとということか！大変な思いをしてチケットを手に入れたのに！けれどもそれが功を奏して、目が覚めると、頭痛は少し残っているものの、吐き気は治まって安心して演奏を聴くことができた。第一部の半分は過ぎてしまったようだ。

筆頭弟子のペテロは、イエスに対し、「たとえあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどは決して申しません」と誓ったに聞わらず、人々から「あなたはイエスの仲間だ」と言われると「知らない」と三度も否定する。そのとき鶏が鳴く。ペテロは「鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われたイエスの言葉を思い出し、激しく慟哭する。そしてこのことはペテロだけのことでなく、信徒一人ひとりの問題としてバツハは、アルトのアリアで主の哀れみを希い、その後のコーラルで神の深い愛と恵みを唄うのである。

また、十字架上でイエスが息を引き取り、その死を

確認する番兵の百卒長（ひやくそつちよう）が「誠に彼は神の子なり」と告白する場面など、幾度も涙を流しながら聞いた。

バツハの信仰の深さから溢れる音楽の美しさ、清らかさが、わたしを慰め、浄化させてくれる。

演奏が終わり大きな大きな拍手が起きているのに、わたしは拍手もできずに呆然としていた。そこへホルの係の方がいらして、「演奏は終わりました。予定の時間にタクシーを呼び、もう来ています。お客様で混み合わないうちに、よろしかったらご案内致します。」と迎えに来てくださった。名残惜しくもあつたけれど、感動を持続させるためにもすぐ帰ることにして立ち上がった。タクシーに乗り込みながら、ホールの方に今日の全ての感謝を込めてお礼を陳べた。

家に帰り着いて、夫には、行かせてもらった感謝の挨拶のみで、済まないと思いつつも、興奮と疲労とですぐ床についた。

あれから20年の間に『マタイ受難曲』を5、6回、演奏者は異なるが、生のものを聞きに行っている。そのたびごとに感動のありようは異なるが、つい最近聞いた『マタイ』もまたこれまでと違った感動と感謝の思いで聞かせていただいた。

ひといきに20年というけれど、解説を必要とする宗

教音楽やオペラなどの生演奏の場合、各個人が解説ブ
ロを練って耳障りな音を出さずに済むように、正式な
機械の名称も、いつ、どの会場ではじめたのかも、わ
たしは知らないけれど、最初は舞台の正面の上の方
に、字幕スーパリーのようなものが設置され、最近では
さらにそれが舞台の両脇にセットされて、観客はか
なり見やすくなったようだ。

わたしははじめて『マタイ』を聞きに行ったとき
は、曲が進むに連れて、あちこちでがさごそと紙をめ
くる音がして気になったがそれが解説を見るためだろ
うと気づくと、これは仕方ないなと思ったのだった。
ところが2千年の5月に行ったときは、それが聞こえ
ないので、友人に尋ねると事情を説明してくれた。

何れにしてもわたしたち視力障害者は、鑑賞するも
のの内容について事前に知っているかいないかで、普
通の人たちとの差がますます大きくなっている。もっ
ともその場で字幕を追うことに必死で、本当の音楽か
ら耳は遠ざけられ、音楽の響きから発せられるスピリ
ットを聞き逃すこともあるかもしれない。(これはわ
たしの傲慢である。)

『マタイ受難曲』のテキストはマルチン・ルターの
ドイツ語訳であるから、ドイツ語が分かり、聞き取れ

たなら最高である。言葉を理解するために日本語訳さ
れた『マタイ』はやはり無理がありそうだ。パツハが
ドイツ語の響き、イントネーションに合わせて音の配
列を決めた以上、日本語がそれにびったり当てはまる
わけにはいかないだろう。

わたしは2度ばかり日本語訳の『マタイ』を聞かせ
ていただいているが、わたし個人の加齢もともなつて
聴力は衰え、せつかくの日本語もよく聴き取れない。
それに、歌手たちも本来ドイツ語で、イタリア語で、
というように、西洋言語発声法をトレーニングしてき
た人たちである。母国語とはいえ、日本語で唄うに
は、日本語の発声法を新たに学ばなければならぬであ
ろう。日本の歌曲さえ、西洋音楽を学習した人たち
の言葉は聞き取り辛いことが多いからである。

大変横道に逸れてしまったが、日本語訳『マタイ』
を聞かせていただいたわたしとしては、どのみち分か
らない言葉であるなら、いっそのことまったく分から
ないドイツ語で聞かせていただいた方が、音楽に没頭
できる気がした。その代わり、日本語での解説、対
訳、書き手の思い入れが過ぎない確かな解説をしっか
り読んでおきたいと思った。

2010年10月10日 日曜

東京漢点字 学習会報告

東京漢点字羽化の会 菅野良之

平成22年度 第4回 (第40回) 報告

1 日時 平成22年7月17日 (土)

18時30分～20時30分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者 (省略)

4 使用教材 「漢点字講習用テキスト 初級編

第四回 (全十回) 漢点字編、墨字編

レーズライター・良、良、良、良、娘、嬢、嬢、何、

荷、奇、寄、練、煙、要、票、眼、銀、根、

限、退、阿、河

5 学習会内容

連絡事項

・8月の学習会は休み。9月18日、10月23日、11月

20日。

前回の復習 (省略)

今回の学習

5 複合文字 (2)

1. 第1基本文字と比較文字で

構成される文字(2)

* 「良 (比・4・5とヤ・3・4)」をパーツとして含む文字四つと、「良 (3とヤ・3・4)」をパーツとして含む文字六つ。

良は、十二支で表した方位の北東の位置で、鬼門ともされ、京を守ることから比叡山に延暦寺、江戸を守ることから日光に東照宮を建立した。

・ 「良 (比・4・5とヤ・3・4)」をパーツとして含む文字四つ。

(20) 「朗 (比・4・5とヤ・3・4)」とヤ (3・4)

で表し墨字とは左右逆。字式は良十月。音読みの口ウは漢・呉音。訓読みに「あきら・か」熟語に「朗報」

「朗朗」「晴朗」「明朗」「朗徹(ろうてつ・すきとおっていること)」

「朗色(ろうしよく・朗らかな様子)」など。

(21) 「娘 (比・4・5とヤ・3・4)」とヤ (3・4) と良 (ヤ・3・4) で表わす。

字式は女十良。音読みのジョウは漢音で「嬢」からきた。熟語に「生娘」「看板娘」「小町娘」「愛娘

(まなむすめ) " 他の読みに " 豆娘 (いととんぼ) " がある。

(22) 「郎^{●●●●}」良 (ヤ・3・4) とおおざと (サ・1・5・6) で表す。

字式は良十おおざと。音読みのロウは漢・呉音。訓読みに " おとこ "。

熟語に " 野郎 " " 下郎 " " 外郎 (ういろいろ) 山口、名古屋の名産) "

" 河太郎 (かわたろう) 、河郎 (かわろう) いずれも河童の異称 "、他の読みに " 郎女 (いらつめ) 若い女子) " " 郎子 (いらつこ) 若い男子) "。

(23) 「浪^{●●●●}」さんずい (ニ・1・2・3) と良 (ヤ・3・4) で表す。字式はさんずい十良。音読みのロウは漢・呉音。熟語に " 浪士 " " 波浪 " " 放浪 " " 流浪 " " 浮浪 " " 浪漫 " " 白浪 (しらなみ) 盗賊の異称) "、歌舞伎の演目に " 白浪五人男 (日本駄右衛門、忠信利平、南郷力丸、赤星重三、弁天小僧の五人の盗賊の物語) " " 白浪五人女 (須走お熊、雲切お六、おさらばお伝、木鼠お吉、山猫おさんの五人の女賊の物語) "、大阪市と近辺の古称の " なにわ " には " 浪花、難波、浪速 " の三文字がある。

・「良^{●●●●}」(3とヤ・3・4) をパーツとして含む文字六つ。

(24) 「眼^{●●●●}」目 (メ・1・2・3・4・5・6) と良 (ヤ・3・4) で表す。

字式は目十良。音読みのガンは漢音、ゲンは呉音。熟語に " 眼鏡 " " 眼力 " " 眼光 " " 眼中 " " 眼目 " " 主眼 " " 正眼 " " 審美眼 " " 着眼 " " 千里眼 " " 血

眼 (ちまなこ) " " 眼撥 (めばち) サバ科の魚) " " 眼張 (めばる) フサカサゴ科の魚) " " 竜眼 (リョウガン) 天子の眼) " " 針眼 (みず) 針の糸を通す孔。針孔とも書く) " など。

(25) 「銀^{●●●●}」金偏 (カ・1・6) と良 (ヤ・3・4) で表す。字式は金十良。

音読みのギンは漢音。訓読みに " かね "。熟語に " 銀婚 " " 銀紙 " " 銀世界 " " 銀舍利 " " 燻し銀 " " 銀閣 "、地名に " 銀山 " " 銀座 " など。

(26) 「根^{●●●●}」木偏 (キ・1・2・6) と良 (ヤ・3・4) で表す。

字式は木偏十良。音読みのコンは漢・呉音。熟語には " 根治 " " 根底 " " 大根 " " 蓮根 " " 羽根 " " 屋根 " " 垣根 " " 禍根 " " 性根 " " 精根 " " 草の根 "、地名に " 島根 " " 彦根 " " 根室 " " 白根 " " 箱根 " " 根岸 "

など。

(27) 「限^レ」こざと偏(サ・1・5・6)と良(ヤ・3・4)で表す。字式はこざと偏+良。音読みのゲンは呉音。熟語に「限外」「上限」「下限」「無限」「刻限」「権限」「無限」「門限」「其限(それきり)」「先物取引の受け渡し時期に「当限(とうぎり)・当月末」、中限(なかぎり)・翌月末)、先限(さきぎり)・3ヶ月末)」、「落語の演題に「寿限無(じゅげむ)」がある。

平成22年度 第5回 (第41回) 報告

1 日時 平成22年9月18日(土)

18時30分〜20時30分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者(省略)

4 使用教材 「漢点字講習用テキスト 初級編

第四回(全十回)」「漢点字編、墨字編

レーズライター・良、良、皂、娘、嬢、嬢、何、

荷、奇、寄、練、煙、要、票、眼、銀、根、

限、退、阿、河

5 学習会内容

前回の復習(省略)

今回の学習

5 複合文字(2)

2. 第1基本文字と比較文字で

構成される文字(2)

(28) 「退^レ」しんによる(ヒ・1・2・3)と良(ヤ・3・4)で表す。字式はしんによる+良。

音読みのタイは漢・呉音。訓読みに「どく」。熟語

に「後退」「辞退」「早退」「進退」「退散」「退却

」「退室」「退席」「退避」「退屈」「脱退」「撤退

」「一進一退」「後退り(あとずさり)」「遠退く

(とおのく)」「不退転」など。

(29) 「既^レ」良(ヤ・3・4)と4・6で表わ

す。字式は良+尻。音読みのキは漢音。右側の尻

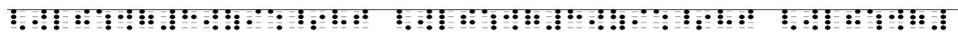
(キ、ケの読み)は象形文字でソツポを向いている状

態、食べてしまったという意味。熟語に「皆既」「既

往」「既決」「既存」「既習」「既得権」「既の所

(すんでのところ)」など。

* 「可^レ」(ヒ・4・5)とカ(1・6)をパ一ツとして含む文字3つ。



(30) 「阿^ア」こごと偏(サ^サ・1・5・6)と可(カ^カ・1・6)で表す。字式はこごと偏十可。音読みのアは漢・呉音、アは唐音。訓読みに「くま」。

熟語に「阿漕(あこぎ)」「阿修羅」「阿弥陀」「加加阿(カカオ)」「能楽の「観阿弥」「世阿弥」、地名に「阿蘇」「阿寒湖」「阿倍野」「阿武隈川」「阿賀野川)」、国名に「阿蘭陀(オランダ、和蘭とも)」。

(31) 「河^カ」さんずい(ニ^ニ・1・2・3)と可(カ^カ・1・6)で表す。字式はさんずい十可。音読みのカは漢音、ガは呉音。熟語に「山河」「氷河」「銀河」「河岸(かし、かがん)」「河童(かつば)」「河鹿(かじか)」「河豚(ふぐ)」「河馬(かば)」「河口」「河原雀(セキレイのこと)」「遡河魚(そかぎよ・鮭や鮎、など河を遡る魚)」「地名に「河津」

「古河(こが、ふるかわ)」「白河」「湯河原」「駿河」「寒河江」など。

・「何^{ナニ}」(ナ^ナ・1・3とカ^カ・1・6)と何をパ一ツとして含む文字一つ。

(32) 「何^{ナニ}」人偏(ナ^ナ・1・3)と可(カ^カ・1

・6)で表す。字式は人偏十可。音読みのガは漢音、ガは呉音。熟語に「如何(いか)」「何度」「何時(なんじ、いつ、いつぞ)」「何方(どちら、どなた)」「何奴(なにやつ、どいつ)」「幾ら何でも」など。

(33) 「荷^カ」草冠(ク^ク・1・4・6)と何(ナ^ナ・1・3)で表す。字式は草冠/荷。音読みのカは漢音。訓読みに「なう」。熟語に「出荷」「荷受(にうけ)」「重荷」「荷重」「集荷」「荷札」「負荷」「稻荷」「明け荷(あけけに)」「茗荷」、作家に「永井荷風」がある。

・「奇^キ」(大^{ダイ}・ケ^ケ・1・2・4・6とカ^カ・1・6)と奇をパ一ツとして含む文字。

(34) 「奇^キ」大(ケ^ケ・1・2・4・6)と可(カ^カ・1・6)で表す。字式は大/可。音読みのキは漢音。類似した字に「奇」がある。訓読みに「あやし(い)」。熟語に「奇縁」「奇形」「奇策」「奇術」「奇人」「奇想天外」「奇特」「奇兵隊」「奇妙」「好奇心」「珍奇」「奇奇怪怪」などがある。

漢文のページ

杜子春 (二)

吾ガ 終ニ 動カ 苦スト 之 夜 「慎
 所ヲ 無カ 不ル 上、 親 又 勿カ
 レ言フ。 所レ 語。 皆 猛 語。 雖モ
 苦シム 當ニ 宜シク 非ズ 為レ 獸・地 尊
 シニ 安レ 眞実ニ。 困 獄・及 神・惡
 心ヲ 但 縛スル 万 戒メテ 日ハク
 一 心ニ 念ズ 懼ルルコト
 老 人 暮レト 酒 一 之ヲ
 其ノ 時、日 將ニ 暮レト 老人
 者、 持シテ 白 石 三 丸 酒 一
 扈ト 遺リニ 子 春ニ 令ム 速ヤカニ 食レ之ヲ
 訖、 取リテ 一 虎 皮ヲ 鋪キ 於 内ノ
 西 壁ニ 東 向シテ 而 坐セシム 戒メテ 日ハク
 「慎 勿カレ 語。 雖モ 尊 神・惡 鬼・
 夜 又・猛 獸・地 獄・及 ビ 君
 之 親 屬ノ 為レ 所ト 困 縛スル 万
 苦上、 皆 非ズ 眞実ニ。 但 當ニ 不レ
 動カ 不レ 語。 宜シク 安レ 心ヲ 莫カ
 終ニ 無カ 所レ 苦シム 當ニ 一 心ニ 念ズ
 吾ガ 所レ 言フ。

不思議な老人から十分な金銭をもらいうけながら、生来の浪費癖はあらたまらず、再び無一文になった杜子春は、老人から三たび莫大な金を受けとることになる。三度目は人のために金を使い世間の義理を果たして、約束通り老人の家を訪れた。白い丸薬と酒を一杯飲んだ後、決して口をきかないように、何事があるうとも真実ではないと言われる。

其の時、日將に暮れんとす。老人は白石三丸と酒一扈とを持して子春に遺り、速やかに之を食わしむ。訖るや、一虎皮を取りて内の西壁に鋪き、東向して坐せしむ。戒めて曰わく、「慎みて語る勿かれ。尊神・悪鬼・夜叉・猛獸・地獄、及び君の親屬の困縛する所と為りて万苦すと雖も、皆眞実に非ず。但當に動かす語らざるべし。宜しく心を安んじて懼るること莫かるべし。終に苦しむ所無からん。當に一心に吾が言う所を念ずべし」。

参照図書 岩波ジュニア新書

奥平卓『漢文の読みかた』



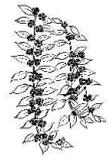
其ノ時、日將ニ暮レント。老人
 者、持シテ白石三丸ト酒一卮
 トヲ遺リ子春ニ、令ム速ヤ
 カニ食ハ之ヲ。訖ルヤ、取
 リテ一虎皮ヲ鋪キ於内ノ西
 壁ニ、東向シテ而坐セシム。戒メ
 テ曰ハク、「慎ミテ勿カレ語ル。
 雖モ尊神・悪鬼・夜叉・猛獸・
 地獄、及ビ君之親属ノ為リテ
 所ト困縛スル万苦スト、皆
 非ズ真実ニ。但シ当ニ
 不動カ不ル語ラ。シ宜
 シク安ンジテ心ヲ莫カル懼
 ルルコト。終ニ無カラン所苦



シム。シ当ニ
 一心ニ念ズ吾
 ガ所ヲ言
 フ」。

「報告とご案内」

一 ボランティア講座



横浜漢点字羽化の会と東京漢点字羽化の会では、会員の募集のための講座を企画しました。現在横浜で開催しております。

①横浜で

去る九月二十九日から三回の予定で、講座を開催しております。

第一日目は、本会の活動のご紹介と点字・漢点字について、岡田がお話致しました。オリエンテーションに当たります。

第二日目は、本会の活動の最も核となるパソコンについて、木下がお話致しました。

パソコンの普及は目覚ましいものがあります。それだけに本会が活動を始めたころのものは、機能に大きな変化が見られます。一般的には使いやすくなっています。当時のパソコン使用者には共通した知識であった「ファイル」、「テキストファイル」、「拡張子」などの用語が、現在はほとんど使われなくなりま

した。しかし本会の活動には、大変重要な位置を占めている知識であり用語です。

このようなことをお話しして、漢点字への変換プログラムであるEIBRWKのお話と使用方法のお話をしていただきました。

第三回目は、十月二十日の予定です。

ご受講の皆様は、大変熱心に耳を傾けて下さっております。どうぞよろしくお願い致します。

②東京で

十一月十日を初回とした講座を計画して参りましたが、新聞にお願いした広告が、編集方針の変化などで紙面の縮小があり、誠に残念ですが掲載されませんでした。

そこで、計画を再検討しなければならなくなった次第です。

二 『人名字解』

昨年・一昨年の『常用字解』（白川静著、平凡社）に引き続き、『人名字解』（同、同）の漢点字版を制作中です。その作業も現在最終段階に至りました。

一冊当たりのページ数や分冊数などの詳細はまだ未

定ですが、その姿は徐々に明らかになって参りました。

近く皆様に、その全容をご紹介できるものと存じます。ご期待下さい。

『常用字解』と同様に、漢点字ファイルである『常用字解』でもご提供致します。

三 表 彰

横浜漢点字羽化の会は昨年、「横浜市社会福祉協会会長表彰」をいただきましたが、それに引き続き、本年は「横浜市市長表彰」をいただけることになったとの一報を、横浜市社会福祉協議会からいただきました。

今年には本会の木下が、日本盲人社会福祉施設協議会から、長年の本会のボランティア活動を表彰されております。

横浜並びに東京の会員の活動の賜です。このように一般から認められつつあることを励みに、もう一歩、歩を進めたいと思っています。

会員各位並びにご支援いただいております皆様、誠にありがとうございます。

(「横－2」ページから続く)

* 「良𠄎𠄎𠄎」という文字があります。漢点字では「良𠄎𠄎𠄎」の〈近似文字〉とされます。個別には使われることの少ない文字です。音は「ゴン・コン」、訓は「うしとら」です。方角では北東を、時刻では午前二時から四時の意味があります。墨字の「良𠄎𠄎𠄎」の天辺の点がない形です。「良𠄎𠄎𠄎」と同様に、部首として、多くの文字に含まれます。「良𠄎𠄎𠄎」は「リョウ・ロウ」、**「良𠄎𠄎𠄎」**は「コン・ガン・ギン・ゲン」の音を表します。

「良好」「良縁」「悪貨は良貨を駆逐する」

(16) 可𠄎𠄎𠄎 カ ベシ

神様に捧げものをして、お告げを聞く形を象った文字と言われます。中の「口𠄎𠄎」は、神様のお告げを聞くために捧げるお祈りを入れる器です。「べし」と読んで、…してよろしい、…した方がよろしい、…すべきである、…しなさいという意味を表します。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

「可能性」「可否」「可決」「可視光線」



漢点字講習用テキスト

初級編 第二十二回

4 基本文字 (3) … 比較文字

前回の近似文字

(1) 天[⠠]_⠠[⠠]_⠠ テン あま あめ

「大[⠠]_⠠[⠠]_⠠」の〈近似文字〉です。「大[⠠]_⠠[⠠]_⠠」の上に接して、横線を置いた形の文字です。上の線は、人の上にあるところ、人より上に位するものを表します。また、この世の中を治める人、人の上に立つ人をも指します。漢点字では、「[⠠]_⠠[⠠]_⠠」で表されます。

「天皇陛下」「天上界」「天井」「天国」「天地人」「天の川」「天の浮橋」

(2) 太[⠠]_⠠[⠠]_⠠ タイ タ ダ ふと-い ふと-る

「大[⠠]_⠠[⠠]_⠠」の〈近似文字〉です。「大[⠠]_⠠[⠠]_⠠」の下の、左右に開いた中に、点を加えた形です。大きくゆったりした様子、太って立派な様子、大様に構えた様子を表しています。漢点字では、「[⠠]_⠠[⠠]_⠠」で表されます。

「太陽」「太鼓」「太郎さん」

(3) 夫[⠠]_⠠[⠠]_⠠ フ フウ おっと おとこ

「大[⠠]_⠠[⠠]_⠠」の〈近似文字〉です。「大[⠠]_⠠[⠠]_⠠」の交差させた横線の上に、もう一本横線を交差させた形の文字です。成人した男性、背が高く体格の大きな男性を表しています。そこから一家を構えた男、つまり「おっと」の意味が生じました。さらに漢文では「それ、かの」と、指示詞の働きもあります。漢点字では、「[⠠]_⠠[⠠]_⠠」で表されます。

「夫婦」「夫妻」「夫人」「農夫」「漁夫」「工夫」

(4) 片[⠠]_⠠[⠠]_⠠ ヘン かた ひら

「出[⠠]_⠠[⠠]_⠠」の〈近似文字〉です。木を薄く切った切れ端を象っていると言われます。「ヘン」の音で、小さな切れ端、「ひら」と読んで、薄いもの、「かた」と読んで、二つで一組となるものの一つ、中心から離れている、十分でないという意味を表します。イギリスの貨幣の単位、「ペンス」にも当てられます。漢点字では、「[⠠]_⠠[⠠]_⠠」で表されます。

「片方」「片田舎」「片手間」「一片の写真」



2. 対、あるいはグループをなす比較文字 (2)

※ 「高い」と「低い」

(12) 高[⿀][⿀][⿀] コウ たか-い たか-める たか-まる

高い建物を象った文字と言われます。背が高い、高いところ、山や丘のように、土地の高まったところを意味します。そこから、優れた、価値のある、名がよく通ったという意味が生じ、さらに、価値の目安、価値の評価にも用いられます。漢点字では、「[⿀][⿀][⿀]」で表されます。

「高等学校」「高音」「高温」「高名」「出身高校」「高速道路」「売り上げ高」「高をくくる」

(13) 低[⿀][⿀][⿀] テイ ひく-い ひく-める ひく-まる

多くの人が、平らにならした土地に住んでいる形、ならした土地は、周囲より低くなるために、「ひくい」という意味が生じました。この後にご紹介する〈近似文字〉の「[⿀][⿀][⿀]」の下に横線を引いた形が旁で、土地を平らにならすことを意味しています。この部首が「[⿀][⿀][⿀]」という音を表して、色々な文字に含まれます。この文字は、これに人偏がついて、「[⿀][⿀][⿀]」で表されます。

「低木」「低価格」「低空飛行」「低湿地帯」「低成長時代」「景気低迷」

※ 「優・良・可」

(14) 優[⿀][⿀][⿀] ユウ やさ-しい すぐ-れる

この文字の旁「憂」は、しなやかな身体の動きを表した文字です。これに人偏を付けたのが、この文字です。「すぐれる」と読んで、他より抜きん出ていること、能力があることを意味し、「やさしい」と読んで、ものごしが柔らかいこと、思いやりのあること、暖かみのあることを意味します。漢点字では、「[⿀][⿀][⿀]」で表されます。

「優秀」「優美」「優艶」「優勝」「優勢」「優劣」

(15) 良[⿀][⿀][⿀] リョウ よ-い

この文字は、水で洗った穀物の丸い粒を象ったものと言われています。質のよいもの、よい行い、また人格の優れていることを意味します。漢点字では、「[⿀][⿀][⿀]」で表されます。既に出ている文字では、「食[⿀][⿀][⿀]」の中に部首として含まれています。

(32ページ下段へ続く)

編集後記

▼岡田さんの「報告」にあるように、漢点字ボランティアのための講習会が始まりました。皆さん、

熱心にお聞きになっておられるようですが、実際のところ今までに耳にしたことのないような用語がいっぱい出てきて、だいぶ戸惑っておられるのではないのでしょうか。今やコンピューターの性能はとてつもなく大きなものになっていきますが、これの方が扱うには複雑で難しい内部のメカニズムは見せないようにし、簡単に操作できる表面のみを表に現して間違いなくコンピューターを動かせるようにするという傾向がますます顕著になってきています。▼しかし、漢点字を打ち出すためのデータファイルを作り、実際に点字プリンターを動かすという作業は、若干特殊な分野を利用することになります。今では「外字」を自分で作ってそれを登録して使うなどというものは一般的ではなくなくなりました。そういうものは専門家が作って皆さんに供給するという考えなのでしよう。数多くの「異体字」が、ウインドウズの外字コードにすでに割り当てられていて、ユーザの皆さんはそれと知らずにこれを利用することになっていきます。便利には違いありませんが、実は漢点字はそこまでは対応していないので、漢点字変換ができないという大きな問題も生じているのです。▼素人は外字の作成など考えるなどいわんばかりに、それに必要な「外字エディター」は、ウインドウズの「すべてのプログラム」からも消えてしまいました。長年これを愛用してきたわれわれとしては、不便であると同時にとても寂しい思いをします。

(木下 和久)

(有) 横浜トランスファ福祉サービス

障害者自立支援法の下、障害者にガイドヘルパーを派遣して、外出を支援しています。対象は、横浜市在住・在宅の、視覚・肢体・知的重度障害者。

常時募集・ガイドヘルパー：資格・ホームヘルパー2級以上、および視覚・肢体障害者移動介護研修修了。

業務概要：上記障害者の外出支援。詳細は担当・柳田まで。



〒231-0063 横浜市中区花咲町1-46-1

GSプラザ桜木町1104

電話： 045-263-0306

FAX： 045-263-0316

E-MAIL (岡田健嗣) : okada_tr_eib@ybb.ne.jp

横浜漢点字羽化の会 URL : <http://ukanokai.web.infoseek.co.jp>

《表紙絵 岡 稲子》 次回の発行は12月15日です。

※本誌(活字版・DAISY版・ディスク版)の無断転載は固くお断りします。